

産地戦略

実施期間 令和5～10年度

実施主体 れんこん持続農業協議会
都道府県 徳島県
対象地域 徳島市川内町
対象品目 れんこん（露地、施設）

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

徳島市の川内地区のれんこん栽培の歴史は古く、昭和22年頃から低湿地で栽培が始まっています。吉野川下流域の豊富な水資源と温暖な気候を生かして産地化が図られ、周年出荷のためにハウスれんこんの導入も進みました。

このように産地は拡大してきましたが、近年は連作による病気や生理障害の発生、地力の低下により収量が低下してきています。その主な原因として、れんこんは湛水状態で栽培を行うため、堆肥等の土作り資材や有機質肥料の使い方が難しく、地域に合った持続的農業の手法が確立できていないことが考えられました。

そこで、有機農業で実績のある一般社団法人日本有機農業普及協会と連携し、代表理事の小祝政明氏を栽培コンサルタントに迎え、従来の栽培体系を有機栽培の視点から見直し、土作りを重点的に取り組むことで、生産力が向上した持続的農業を目指すこととしました。

現在の栽培体系

れんこんのグリーンな栽培体系マニュアル記載のとおり



グリーンな栽培体系

れんこんのグリーンな栽培体系マニュアル記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	32 ▶	32	れんこん（露地、施設）
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	10.8 ▶	15	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

（技術の内容・効果）

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材（乳酸菌）を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
環境	れんこん茎葉のすき込みによる有機質の導入	▶ 堆肥、天敵資材（乳酸菌）を活用した土作り	化学肥料の低減
省力	散粒器や動力噴霧器による農薬散布	▶ マルチコプター（ドローン）による農薬散布	農薬散布時間・労力の軽減
省力	定期的な見回りによる水管理	▶ 水管理システム	ほ場管理の効率化

（技術の効果の指標・目指すべき水準）

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	3 ▶	2	A剤（石灰窒素）1回→0回、 B剤（殺虫剤・アブラムシ類）2回→2回に削減
環境	堆肥施用による化学肥料の低減（ha）	10.8 ▶	15	
省力	農薬散布時間（時間）	0.4 ▶	0.05	10a当たり時間
省力	ほ場管理（水管理）時間（時間）	4.5 ▶	2	10a当たり時間

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

研修会・実証展示等で習得したグリーンな栽培体系について、栽培マニュアルの継続的な実践により、生産力の高い持続的な農業の定着を目指す。

関係者の役割

関係者名	農業支援センター（県）	農業協同組合	生産者
役割	技術的な指導	生産部会への技術波及	新しい栽培体系の実践

その他